

英・EU通商協議の行方は？ クリスマスウィークも警戒続く

2020年12月21日(月)

今週はクリスマスウィーク。クリスマスは日本などごく一部を除いて市場が休場。通常の休日と比べても取引参加者が極端に少なくなる時期に当たっています。

ただ、そうした中、英国とEUとの通商協議への警戒が広がっています。結論次第では取引参加者が少ない中で大きな材料が出て市場が大混乱する可能性もありそうです。

まずは英国のEU離脱(ブレグジット)についておさらいしてみましょう。

英国は2016年6月23日の国民投票で予想外にEU離脱を決定しました。翌2017年3月にEUに対して正式に離脱を通告。その後の英国とEUとの離脱協議が難航し、たびたび離脱決定が延長されましたが、今年1月24日ようやく離脱協定が署名され、同30日に加盟各国の批准手続きも完了し、1月31日付で英国はEUから離脱しました。これまではEUという一つの枠組みの中で人やモノの移動の自由が確保されていましたが、今後はEU離脱したことで英国とEUとは自由貿易協定(FTA)などを含む取り決めが必要となります。その協定をまとめるための移行期間が2020年末となっています。

FTAに関してはEU加盟国である27か国すべての承認が必要となりますので、本来はもっと早い段階での合意が必要。当初は10月末あたりがその目途とされていました。9月に入ってジョンソン英首相は10月15日を期限とすると発表し、早期の解決を目指しましたが、合意には至らず。

その後10月31日時点でも合意は遠いという状況で、ここまですると協議が続いています。

今月に入ってジョンソン首相とフォンデアライエン欧州委員長が直接協議し、13日までに確固たる決断を下すと発表されました。ようやく結論が出るか期待されましたが、結果は協議の延長が決まるという状況。

13日時点までに合意が成立する可能性があまりなかったこともあり、11日金曜日までにポンド売りが入るなど、市場もさすがにハードブレグジットを覚悟するような動きも見られました。しかし、協議延長と、前向きに進展との関係者発言もあって市場は期待感を持って動向を見守っており、ポンドは対ドルを中心に力強い上昇を14日からの週で見せました。

多くの対立点がありましたが、協議を続ける中で主要な課題として残っているものが3つあります。

一つは漁業権の問題。EU加盟各国間では割り当てられた漁獲上限を守る限り、他国の海域(排他的経済水域:EEZ)での漁が認められてきました。英国はEU離脱を受けてこの管理を自国で行う姿勢を示していますが、これにEU側、特に影響が大きいフランスやオランダなどから強い反発が起きています。英国の近海はサバやタラなどが豊富で、EUの北大西洋全体の漁獲量の約35%を占めるとまで言われている豊富な漁場です。フランスなどとしては自国の漁業関係者の事業の継続にかかわる大きな問題だけに、安易な妥協はしたくないといったところ。もちろん英国としても自国の漁業関係者の権利を守ることは自治にかかわる重要な問題。英国の漁業者は熱心なブレグジット支持層だけに、双方引くことが難しくなっています。当初の交渉では英国側が3年間の猶予期間を設け、その後80%の割り当て返還を要求、EU側は10年間の猶予期間で15-18%の返還という主張だったとみられます。あまりの大きな乖離に、合意点を探ることの難しさを感じさせます。もっとも関係者筋情報としては5-7年の猶予期間で50%を返還という案で合意に向けて模索しているという話が出ています。ただ、その後17日になって、フォンデアライエン欧州委員長との協議を終えたジョンソン首相が、EU側が漁業権に対する要求を弱めない限り合意は不可能と発言しており、EU側の要求が依然厳しいという可能性があります。ジョンソン首相としてもこの件で弱腰な対応を見せると政権自体が不安定になる可能性があるだけに、難しいところでは。

二つ目は公正な競争条件(レベルプレイングフィールド:LPF)、三つ目がLPFとも関連が大きい、紛争に関するガバナンスです。

EUは関税を撤廃する条件として、EU規制を順守することによる公正な競争条件を整えることを求めています。一方で英国はEU規制から離脱しての自由競争の水準を目指しています。

こちらも英国の自治というブレグジットの根幹にかかわる部分だけに、妥協が難しいものとなっています。ただ、EU側が、英国によるダンピングが発生した場合にEU側が一方的かつ迅速な対応(制裁関税など)を行う権利という当初の主張から、補償に対する協議の設置などある程度制限された補償メカニズムへ主張を後退させる形での妥協が図られているようです。また、英国側も政府補助金についての規定において、EU側と同等水準に定めることや、違反した場合のガバナンスについてEU司法裁判所の権利を認めることなどの歩み寄りを見せています。

このように歩み寄りを見せながらも、両者の立场上厳しい相違点のある現在の状況。うまくまとまれば今のポンド高の流れが一気に加速する可能性がある一方、ハードブレグジットが確定すれば一気のポンド売りも。近年にない大荒れのクリスマスになるかも。